

安心の設計

介護、医療、子育て、老後
のご意見・疑問をお寄せ下
メールansin@yomiuri.com
ファクス03・3217・9957

認知症 いろいろは

5

当事者同士が本音で語る場

認知症にまつわる支援策は、長年、家族や介護職員ら、ケアに携わる人の負担を減らすことに重点が置かれてきた面があります。それが近年、認知症の本人が意見を発信したり、活躍する場を設けたりと、当事者を支援する動きが盛んになってきています。

「『認知症になったら何も分からなくなる』『何もできなくなる』というイメージを持っている人もいるかもしれませんが、それは誤解です」。当事者団体「日本認知症本人ワーキンググループ」事務局の鈴木英一さんは、そう話します。

◆本人ミーティングで話し合われているテーマの例



自分の体験	何が起り、どう思ったか 嫌だったこと 良かったこと
困難	困りごと 不自由なこと 生きづらさ
自分なりの工夫	困りごとなどへの具体的な対応策 前向きに暮らすヒント
自分の希望	やりたいこと これからの望み
意見要望提案	地域や行政、専門職や家族へ分かってほしいこと 変えてほしいこと 新たに必要なこと

※長寿社会開発センター作成「本人ミーティング開催ガイドブック」から抜粋

お互いの励みに◆支援策の参考に

不安感が強い人には、支援者がそばにいたり、司会進行や記録をサポートしたりすることはありますが、基本的に発言するのは当事者です。少人数で、当事者同士だからこそ本音で話しやすい空気が生まれます。

なり、診断されたばかりで不安を抱える当事者らの相談に乗る「ピアサポート」の活動も広がってきています。

当事者同士だからこそわかり合えることがあり、「社会とのつながりを持ちながら生き生きと暮らしている当事者の姿を見ることで、希望を持てた」といった声が上がっています。

また全国でくまなく開催されているわけではありませんが、近くで行われている本人ミーティングやピアサポートの情報を知りたい場合、地域の包括支援センターや、自治体の担当課、認知症疾患医療センターなどに問い合わせみてください。 (田中ひろみ)

*次回は22日に掲載予定です。